

4) 生物

(1) 陸生植物

事業実施区域周囲の陸上植物については、表 2-2-108 に示す文献その他の資料に示される結果により、植生、植物相を把握した。

表 2-2-108 使用した文献その他の資料

項目	文献その他の資料
植生	・「第 6 回、7 回自然環境保全基礎調査 植生調査（横須賀）、平成 12 年度」（環境省 自然環境局 生物多様性センター）
植物相	・横須賀市博物館研究報告 58 号「三浦半島の海岸植物相とその特色」（横須賀市 平成 23 年）

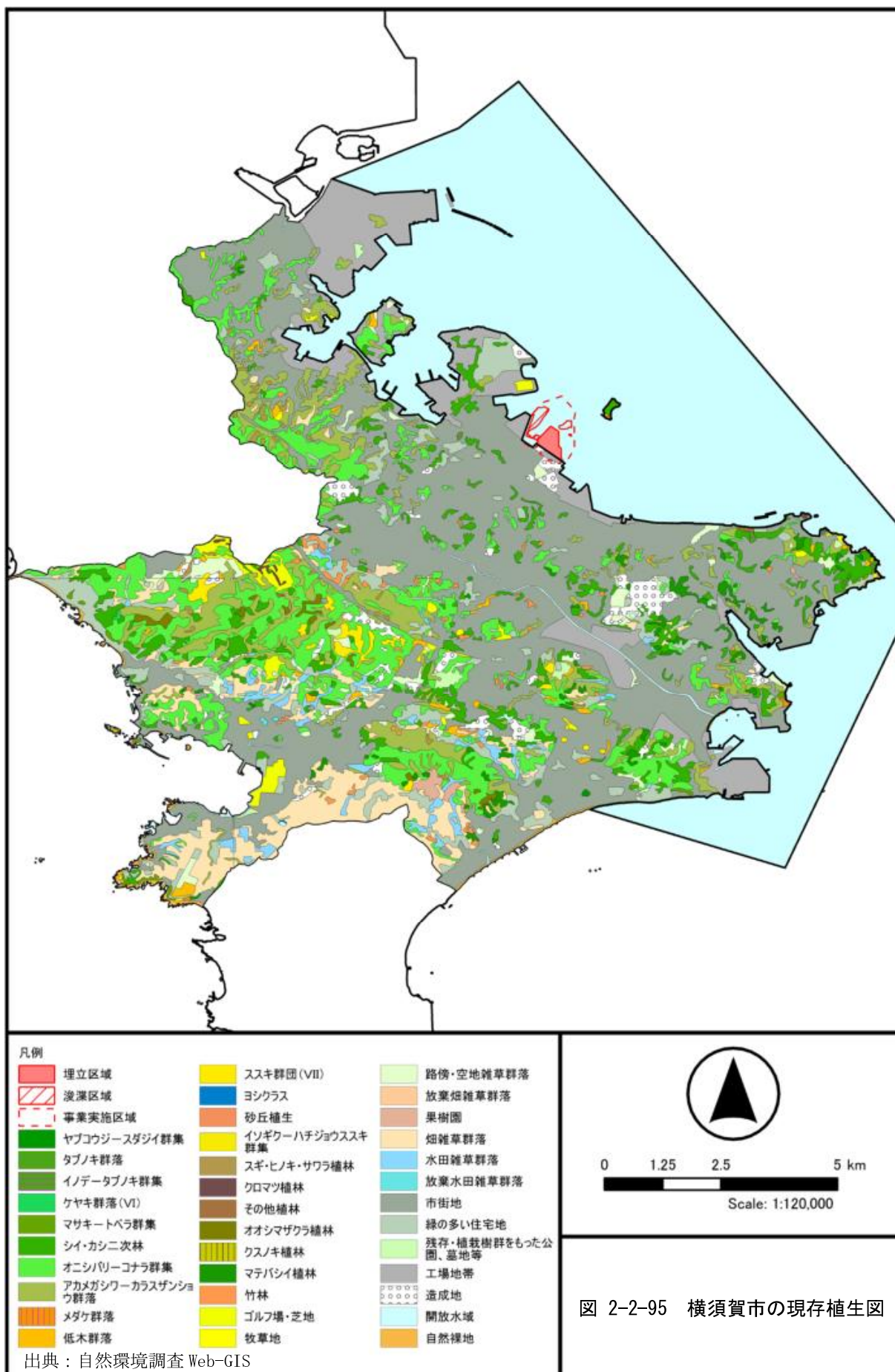
ア. 植生

事業実施区域周囲の現存植生図は図 2-2-95 に示すとおりである。

横須賀市の沿岸部周辺は、工場地帯、市街地、造成地が多くを占めており、平地部は市街地や住宅地が広がっているため、森林群落はほとんどみられない。平地部の植物群落は、シイ・カシ二次林、オニシバリ・コナラ群集、アカメガシワ・カラスザンショウ群落が島状に分布している。横須賀港沖の猿島は、シイ・カシ二次林が主な群落となっている。

事業実施区域の陸域は、図 2-2-95 では主に「工業地帯」に分類されているが、現状では公園（うみかぜ公園）として利用されており、うみかぜ公園内の植栽の状況については図 2-2-96 のとおりである。

なお、第 5 回における「自然環境保全基礎調査」によると、特定植物群落は事業実施区域周囲において確認されていない。



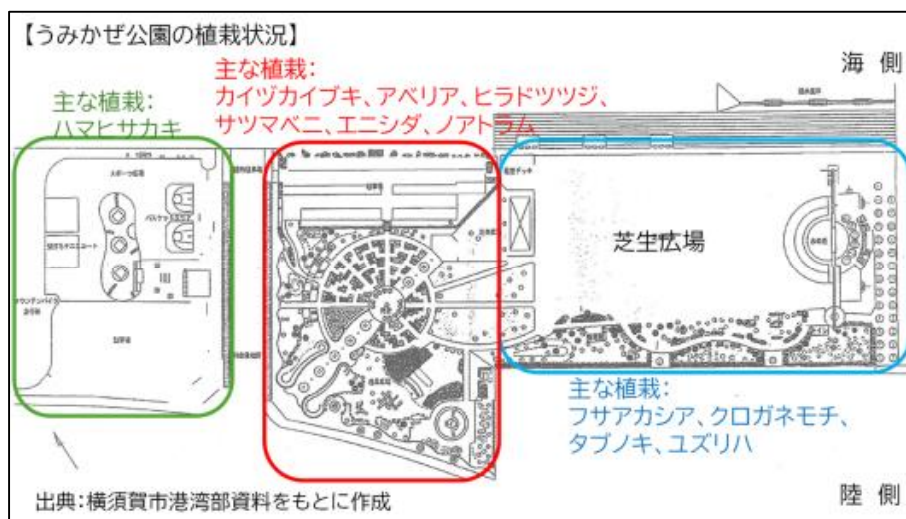


図 2-2-96 横須賀市うみかぜ公園内の植栽平面図

イ. 植物相

横須賀市博物館研究報告をもとに、事業実施区域周辺に記録があった海岸植物の出現状況を表 2-2-109 に示す。40 科 85 種（亜種、変種、品種を除く）が確認された。

木本の種はヤブニッケイ、クコ、トベラ、シャリンバイ、オオバイボタ等が確認された。草本の種はハマダイコン、ハマナデシコ、ハマツメクサ、ハマボッス、トウオオバコ、ツワブキ等が記録されている。

表 2-2-109 事業実施区域周辺の植物相

分類群			科数	種数
シダ植物		大葉シダ綱	1	1
種子植物	裸子植物		3	3
	被子植物	単子葉類	7	28
		真正双子葉類	29	53
合計			40	85

出典：横須賀市博物館研究報告 58 号「三浦半島の海岸植物相とその特色」（平成 23 年、横須賀市）

ウ．陸上植物の重要な種及び注目すべき群落

横須賀市博物館研究報告による事業実施区域周辺で記録された陸上植物種のうち、表 2-2-110 の選定基準により抽出された重要な種は、表 2-2-111 に示すとおりである。

事業実施区域周辺で記録がある陸上植物の重要な種は、8 科 11 種であった。

事業実施区域周辺で、表 2-2-112 に選定されている陸上植物の重要な群落、保護地域は抽出されなかった。

表 2-2-110 重要な種（陸上植物）選定基準

記号	法律または文献	種別
A	「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号、最終改正：令和 2 年 6 月 10 日法律第 41）等により指定されているもの	特別天然記念物 国指定天然記念物 県指定天然記念物 市指定天然記念物
B	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号、最終改正：令和元年 6 月 14 日法律第 37 号）により指定されているもの	国際希少野生動植物種 特定第一種国内希少野生動植物種 特定第二種国内希少野生動植物種 緊急指定種
C	「環境省レッドリスト(2020)の公表について」により指定されているもの（環境省報道発表資料、令和 2 年 3 月 27 日）	絶滅(EX) 野生絶滅(EW) 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN) 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 絶滅のおそれのある地域個体群(LP)
D	「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」の掲載種（神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課、神奈川県立生命の星・地球博物館、令和 4 年 3 月）	絶滅(EX) 準絶滅(準絶) 野生絶滅(EW) 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN) 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 注目種(注目) 絶滅のおそれのある地域個体群(LP)

表 2-2-111 重要種（陸上植物）の指定状況

項目	目	科	和名	学名	重要種選定基準の 法律または文献記号			
					A	B	C	D
種子植物	ヒノキ	ヒノキ	ハイネズ	<i>Juniperus conferta</i>				CR
	クサスギカズラ	ヒガンバナ	ハマオモト	<i>Crinum asiaticum var.japonicum</i>	県指定			EN
	イネ	カヤツリグサ	シオクグ	<i>Carex scabrifolia</i>				NT
			ビロードテンツキ	<i>Fimbristylis sericea</i>				EN
		イネ	ハマヒエガエリ	<i>Polypogon monspeliensis</i>				VU
			ワセオバナ	<i>Saccharum spontaneum var.arenicola</i>				VU
	バラ	バラ	ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla niponica</i>			VU	VU
	ナデシコ	ヒユ	ホソバハマアカザ	<i>Atriplex patens</i>				VU
	シソ	ハマウツボ	ヒキヨモギ	<i>Siphonostegia chinensis</i>				VU
	キク	キク	ノコギリソウ	<i>Achillea alpina ssp.alpina var.longiligulata</i>				EN
			ウラギク	<i>Tripolium pannonicum</i>			NT	EN
7 目 8 科 11 種					1 種	0 種	2 種	11 種

注：指定内容の略称は以下の通り。

県指定：神奈川県指定天然記念物、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧

表 2-2-112 陸上植物の重要な群落・保護地域選定基準

記号	法律または文献	種別
ア	「自然環境保全法」(昭和 47 年、法律第 85 号) に指定されている地域	原生自然環境保全地域 自然環境保全地域
イ	「自然公園法」(昭和 32 年、法律第 161 号) により指定されている地域	国立公園 国定公園 県立自然公園
ウ	「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」により指定されている地域 (平成 4 年、条約第 7 号)	世界遺産 (自然遺産) の登録基準に該当するもの
エ	「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(平成 12 年、環境庁) により指定されている植物群落	特定植物群落

(2) 陸生動物

ア. 哺乳類

陸生動物の分布情報は、図 2-2-97 に示す範囲（二次メッシュコード 523975）を対象に収集した。

事業実施区域周囲で確認記録がある哺乳類は表 2-2-113 に示すとおりであり、タヌキとアナグマの 1 目 2 科 2 種のみであった。

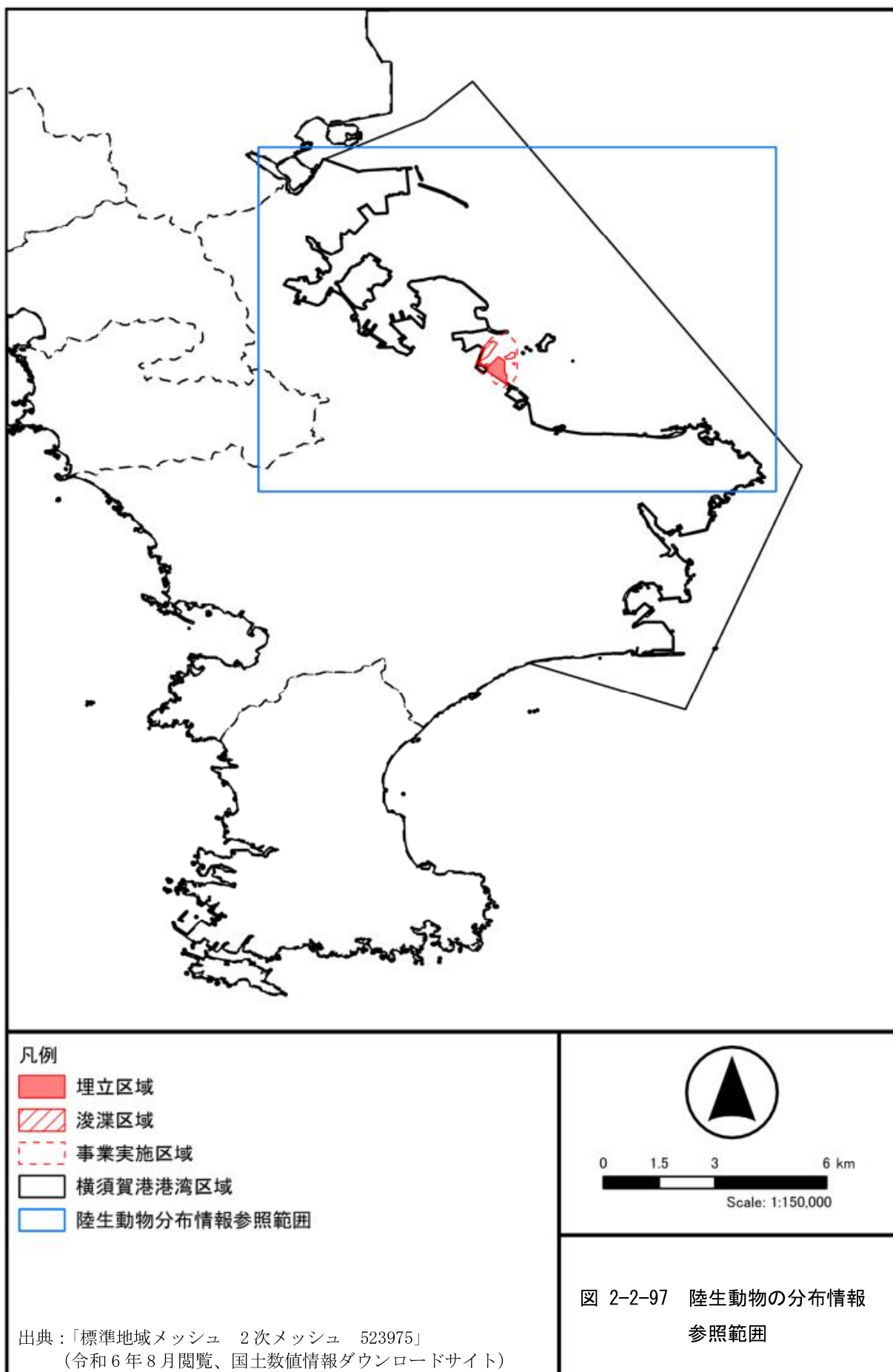
表 2-2-113 事業実施区域周囲の哺乳類の記録状況

目名	a		b		出現種総計	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数
ネコ目(食肉目)	1	1	2	2	2	2
合計	1	1	2	2	2	2

注:文献名は以下に示すとおりである。

a:「第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書[哺乳類]」（環境庁 昭和 54 年）

b:「第 6 回自然環境保全基礎調査 哺乳類分布調査報告書 哺乳類」（環境省 平成 16 年）



イ. 鳥類

事業実施区域周囲で確認記録がある鳥類を表 2-2-114 に示す。48 科 161 種が記録された。

記録がある主な鳥類の種のうち、陸鳥は、コジュケイ、キジバト、シジュウカラ、スズメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、メジロ、ウグイス、エナガ、セグロセキレイ、モズ、ドバト、トビ等であった。水鳥は、イソシギ、コサギ、オナガガモ、カルガモ、ヒドリガモ、ウミウ、ウミネコ、カワウ、オオバン等が記録されている。

「第 4 回自然環境保全基礎調査 神奈川県自然環境情報図」（環境庁 平成 7 年）によると、コアジサシ、イワツバメの集団繁殖地及びサギ類、ツバメの集団ねぐらは、事業実施区域周囲には分布していない。

表 2-2-114 事業実施区域周囲の鳥類の記録状況

目名	a		b		c		出現種総計	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
キジ目	1	1	1	2	1	2	1	3
カモ目			1	5	1	16	1	16
カイツブリ目					1	5	1	5
ハト目	1	3	1	2	1	3	1	3
アビ目					1	1	1	1
ミズナギドリ目					1	2	1	2
カツオドリ目			1	1	2	4	2	4
ペリカン目	1	3	1	1	1	7	1	8
ツル目	1	2			1	1	1	2
カッコウ目	1	1			1	2	1	2
アマツバメ目					1	2	1	2
チドリ目	2	2	2	6	6	35	6	35
タカ目	1	2	1	1	2	8	2	8
フクロウ目	1	1			1	1	1	2
ブッポウソウ目					1	1	1	1
キツツキ目	1	1	1	1	1	4	1	4
ハヤブサ目					1	3	1	3
インコ目					1	1	1	1
スズメ目	18	26	13	26	21	56	23	59
合計	28	42	22	45	46	154	48	161

注：文献名は以下に示すとおりである。

a: 「第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書[鳥類]」（環境庁 昭和 55 年）

b: 「第 3 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 鳥類」（環境庁 昭和 63 年）

c: 「神奈川県の鳥 2011-2015 神奈川県鳥類目録Ⅶ」（日本野鳥の会神奈川支部 2020 年）

ウ. 昆虫類

事業実施区域周囲で確認記録がある昆虫類を表 2-2-115 に示す。15 科 50 種が記録されている。

科数、種数ともにチョウ目（鱗翅目）が最も多く記録されている。チョウ目（鱗翅目）は、アオスジアゲハ、アサギマダラ、キアゲハ、キタテハ、ヤマトシジミ、ベニシジミ等が記録されている。トンボ目（蜻蛉目）はオニヤンマ、コシアキトンボ、バッタ目（直翅目）はクチキコオロギ、カメムシ目（半翅目）はアブラゼミ、クマゼミ、ウシカメムシ、ヒグラシ等、コウチュウ目（鞘翅目）はコクワガタ、ノコギリクワガタ、コハンミョウ、ベニバハナカミキリ等が記録されている。

表 2-2-115 事業実施区域周囲の昆虫類の記録状況

目名	a		b		c		出現種総計	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
トンボ目（蜻蛉目）	2	2					2	2
バッタ目（直翅目）	1	1					1	1
カメムシ目（半翅目）	1	1	1	6			2	7
チョウ目（鱗翅目）	2	3	6	30	1	3	6	31
コウチュウ目（鞘翅目）	3	3	2	4	1	3	4	9
合計	9	10	9	40	2	6	15	50

注：文献名は以下に示すとおりである。

- a: 「第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書〔昆虫類〕」（環境庁 昭和 55 年）
b: 「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 昆虫類」（環境庁 平成 5 年）
c: 「第 5 回自然環境保全基礎調査 動植物分布情報報告書 昆虫類」（環境省 平成 14 年）

エ. 両生類・爬虫類

事業実施区域周囲で確認記録がある両生類・爬虫類を表 2-2-116 に示す。9 科 13 種が記録されている。

科数、種数ともに無尾目が最も多く記録されている。無尾目はアズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ウシガエル、シュレーゲルアオガエル等、有鱗目はアオダイショウ、ヒバカリ、ニホンマムシ、ニホニヤモリ等、有尾目はトウキョウサンショウウオ一種のみが記録されている。

表 2-2-116 事業実施区域周囲の両生類・爬虫類の記録状況

目名	a		b		出現種総計	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数
有尾目	1	1	1	1	1	1
無尾目	4	7			4	7
有鱗目	4	5	1	1	4	5
合計	9	13	2	2	9	13

注: 文献名は以下に示すとおりである。

a: 「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 両生類・爬虫類」 (環境庁 平成 5 年)

b: 「第 5 回自然環境保全基礎調査 動植物分布情報報告書 両生類・爬虫類」 (環境省 平成 13 年)

オ. 魚類（淡水・汽水域）

事業実施区域周囲で確認記録がある淡水・汽水域魚類を表 2-2-117 に示す。9 科 19 種が記録されている。

科数、種数ともにスズキ目が最も多く記録されている。記録されている種の多くが、キチヌ、クロダイ、マハゼ、ヒイラギ等、汽水域から近海に生息する種であった。

表 2-2-117 事業実施区域周囲の魚類（淡水・汽水域）の記録状況

目名	a		b		出現種総計	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数
ウナギ目	1	1	1	1	1	1
ボラ目	1	2	1	2	1	2
ダツ目	1	1	1	1	1	1
スズキ目	3	10	5	13	5	14
フグ目			1	1	1	1
合計	6	14	9	18	9	19

注：文献名は以下に示すとおりである。

- a: 「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 淡水魚類」（環境庁 平成 5 年）
b: 「第 5 回自然環境保全基礎調査 動植物分布情報報告書 淡水魚類」（環境省 平成 14 年）

カ. 陸産貝類・淡水産貝類

事業実施区域周囲で確認記録がある陸産貝類・淡水産貝類を表 2-2-118 に示す。腹足綱、多板綱、異歯亜綱の 3 綱で 9 目 22 科 46 種が記録されている。

目数、科数、種数ともに腹足綱が最も多く記録されている。記録種は、オカチョウジガイ、ウスカワマイマイ、オナジマイマイ、ハコネギセル、ヒカリギセル等であった。

表 2-2-118 事業実施区域周囲の陸産貝類・淡水産貝類の記録状況

目名	a			b			出現種総計		
	目数	科数	種数	目数	科数	種数	目数	科数	種数
腹足綱	6	18	39	4	11	23	7	20	43
多板綱	1	1	2				1	1	2
異歯亜綱	1	1	1				1	1	1
合計	8	20	42	4	11	23	9	22	46

注: 文献名は以下に示すとおりである。

a: 「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 陸産及び淡水産貝類」 (環境庁 平成 5 年)

b: 「第 5 回自然環境保全基礎調査 動植物分布情報報告書 陸産及び淡水産貝類」 (環境省 平成 14 年)

キ. 陸上動物の重要な種

事業実施区域周辺で記録があった陸上動物種のうち、表 2-2-119 の選定基準により抽出された重要な種は表 2-2-120、文献ごとの重要種の記録の内訳は表 2-2-121 に示すとおりである。

事業実施区域周辺の陸上動物の分布記録のうち、哺乳類は重要種に該当する種の記録がなかった。鳥類は 12 目 28 科 66 種、昆虫類は 1 目 2 科 2 種、両生類・爬虫類は 3 目 4 科 4 種、魚類（淡水・汽水域）は 2 目 2 科 2 種、陸産貝類・淡水産貝類は 3 目 6 科 8 種が重要種に該当した。

表 2-2-119 重要種（陸上動物）選定基準

記号	法律または文献	種別
A	文化財保護法（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号、最終改正：令和 2 年 6 月 10 日法律第 41）等により指定されているもの	特別天然記念物 国指定天然記念物 県指定天然記念物 市指定天然記念物
B	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号、最終改正：令和元年 6 月 14 日法律第 37 号）により指定されているもの	国際希少野生動植物種 特定第一種国内希少野生動植物種 特定第二種国内希少野生動植物種 緊急指定種
C	「環境省レッドリスト(2020)の公表について」により指定されているもの（環境省報道発表資料、令和 2 年 3 月 27 日）	絶滅(EX) 野生絶滅(EW) 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN) 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 絶滅のおそれのある地域個体群(LP)
D	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」の掲載種（神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年）	絶滅 野生絶滅 絶滅危惧Ⅰ類 絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類 絶滅危惧Ⅱ類 準絶滅危惧 減少種 希少種 要注意種 注目種 情報不足 情報不足 A 情報不足 B 不明種 絶滅のおそれのある地域個体群

注：重要種の選定根拠 D「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」は分類群ごとにカテゴリが設定されている。

表 2-2-120 (1) 重要種（陸上動物・鳥類）

目	科	和名	学名	A	B	C	D
キジ	キジ	ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>			VU	非繁殖期・絶滅危惧 II 類
カモ	カモ	ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>				非繁殖期・準絶滅危惧
ハト	ハト	アオバト	<i>Treron sieboldii</i>				繁殖期・注目種、非繁殖期・注目種
カツオドリ	ウ	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i>			EN	非繁殖期・準絶滅危惧
		ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>				非繁殖期・準絶滅危惧
ペリカン	サギ	ササゴイ	<i>Butorides striata</i>				繁殖期・絶滅危惧 II 類
		チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>			NT	
		クロサギ	<i>Egretta sacra</i>				繁殖期・絶滅危惧 II 類
ツル	クイナ	ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>			NT	繁殖期・絶滅危惧 I 類
アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>				繁殖期・減少種
チドリ	チドリ	ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>				非繁殖期・減少種
		イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>				繁殖期・準絶滅危惧、非繁殖期・注目種
		コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>				繁殖期・注目種
		シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>			VU	繁殖期・絶滅危惧 II 類、非繁殖期・準絶滅危惧
		メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>				非繁殖期・準絶滅危惧
	シギ	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>				非繁殖期・希少種
		タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>				非繁殖期・注目種
		オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>			VU	非繁殖期・絶滅危惧 II 類
		チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>				非繁殖期・絶滅危惧 II 類
		ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>			VU	非繁殖期・絶滅危惧 I 類
		アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>				非繁殖期・準絶滅危惧
		クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>				非繁殖期・準絶滅危惧
		タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>			VU	非繁殖期・準絶滅危惧
		キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>				非繁殖期・絶滅危惧 II 類

表 2-2-120 (2) 重要種（陸上動物・鳥類）

目	科	和名	学名	A	B	C	D
チドリ	シギ	ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>				非繁殖期・絶滅危惧 II 類
		イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>				繁殖期・希少種、非繁殖期・注目種
		キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>				非繁殖期・絶滅危惧 II 類
		オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>				非繁殖期・絶滅危惧 II 類
		トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>				非繁殖期・絶滅危惧 II 類
		ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>			NT	非繁殖期・絶滅危惧 II 類
	カモメ	オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>			NT	
		コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>			VU	繁殖期・絶滅危惧 I 類
	ウミスズメ	ウミスズメ	<i>Synthliboramphus antiquus</i>			CR	
タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>			NT	繁殖期・絶滅危惧 II 類、非繁殖期・準絶滅危惧
	タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>			NT	繁殖期・絶滅危惧 I 類
		オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>			VU	
		ツミ	<i>Accipiter gularis</i>				繁殖期・絶滅危惧 II 類、非繁殖期・希少種
		ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>			NT	繁殖期・情報不足、非繁殖期・希少種
		サシバ	<i>Butastur indicus</i>			VU	繁殖期・絶滅危惧 I 類
		ノスリ	<i>Buteo buteo</i>				繁殖期・絶滅危惧 II 類、非繁殖期・希少種
フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>				繁殖期・準絶滅危惧
		アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>				繁殖期・絶滅危惧 II 類
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>			VU	繁殖期・絶滅危惧 I 類、非繁殖期・希少種
スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>				繁殖期・絶滅危惧 II 類
	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>				繁殖期・減少種
	シジュウカラ	コガラ	<i>Poecile montanus</i>				繁殖期・絶滅危惧 II 類、非繁殖期・準絶滅危惧
	ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>				繁殖期・減少種
	ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>				繁殖期・減少種
		コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>				繁殖期・減少種

表 2-2-120 (3) 重要種 (陸上動物・鳥類)

目	科	和名	学名	A	B	C	D
スズメ	ウグイス	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>				繁殖期・準絶滅危惧
	ムシクイ	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>				繁殖期・準絶滅危惧
		センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>				繁殖期・準絶滅危惧
	ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>				繁殖期・絶滅危惧 II 類
	セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>				繁殖期・減少種、非繁殖期・減少種
	ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>				繁殖期・減少種
		アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>				繁殖期・減少種
		ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>				繁殖期・絶滅危惧 II 類
		コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>				繁殖期・絶滅危惧 I 類
		キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>				繁殖期・減少種
		オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>				繁殖期・準絶滅危惧
	セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>				繁殖期・減少種
		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>				繁殖期・減少種
		ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>				繁殖期・絶滅危惧 II 類
	アトリ	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>				繁殖期・減少種
	ホオジロ	アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>				繁殖期・絶滅危惧 II 類
		クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>				繁殖期・絶滅危惧 I 類、非繁殖期・減少種
12 目 28 科 66 種				0 種	0 種	18 種	62 種

注 1: 重要種選定基準の法律または文献記号は表 2-2-119 の表中の記号と対応している。

注 2: 重要種の選定根拠 D「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」では鳥類のみ繁殖期、非繁殖期ごとにカテゴリが設定されている。

注 3: 重要種の選定根拠 D「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」鳥類のカテゴリ種別は以下の通り。
絶滅、野生絶滅、絶滅危惧 I 類、絶滅危惧 II 類、準絶滅危惧、減少種、希少種、注目種、情報不足、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

表 2-2-120 (4) 重要種（陸上動物・昆虫類）

目	科	和名	学名	重要種選定基準の 法律または文献記号			
				A	B	C	D
鞘翅目	タマムシ	アヤムナビロタマムシ	<i>Sambus quadricolor quadricolor</i>				絶滅危惧Ⅱ類
	クワガタムシ	ヒラタクワガタ	<i>Dorcus titanus pilifer</i>			VU	絶滅危惧Ⅱ類
1 目 2 科 2 種				0 種	0 種	1 種	2 種

注 1: 重要種選定基準の法律または文献記号は表 2-2-119 の表中の記号と対応している。

注 2: 重要種の選定根拠 D「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」昆虫類・クモ類のカテゴリ種別は以下の通り。

絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、要注意種、希少種、注目種、情報不足、情報不足 A、情報不足 B、不明種

表 2-2-120 (5) 重要種（陸上動物・両生類・爬虫類）

目	科	和名	学名	重要種選定基準の 法律または文献記号			
				A	B	C	D
有尾目	サンショウウオ	トウキョウサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus tokyoensis</i>			VU	絶滅危惧Ⅰ類
無尾目	アオガエル	シュレーゲルアオガエル	<i>Rhacophorus schlegelii</i>				要注意種
	アカガエル	ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>				絶滅危惧Ⅱ類
有鱗目	ヘビ	ヒバカリ	<i>Amphiesma vibakari vibakari</i>				準絶滅危惧
3 目 4 科 4 種				0 種	0 種	1 種	4 種

注 1: 重要種選定基準の法律または文献記号は表 2-2-119 の表中の記号と対応している。

注 2: 重要種の選定根拠 D「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」爬虫類、両生類のカテゴリ種別は以下の通り。

絶滅種、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、要注意種、希少種

表 2-2-120 (6) 重要種（陸上動物・淡水汽水域魚類）

目	科	和名	学名	重要種選定基準の 法律または文献記号			
				A	B	C	D
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>			EN	
ダツ	メダカ	メダカ（ミナミメダカ）	<i>Oryzias latipes</i>			VU	絶滅危惧ⅠA類
2 目 2 科 2 種				0 種	0 種	2 種	1 種

注 1: メダカ、ミナミメダカは同一種として扱った。

注 2: 重要種選定基準の法律または文献記号は表 2-2-119 の表中の記号と対応している。

注 3: 重要種の選定根拠 D「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」汽水淡水魚類のカテゴリ種別は以下の通り。

絶滅、野生絶滅、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、情報不足、注目種

表 2-2-120 (7) 重要種（陸上動物・陸産淡水産貝類）

目	科	和名	学名	重要種選定基準の 法律または文献記号			
				A	B	C	D
異鰓	キセルガイ	スルガギセル	<i>Megalophaedusa surugensis</i>			NT	－
	モノアラガイ	モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i>			NT	－
原始紐舌	タニシ	マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i>			VU	－
	ヤマタニシ	サドヤマトガイ	<i>Japonia sadoensis</i>			NT	－
柄眼	キセルガイ	チュウゼンジギセル	<i>Megalophaedusa sericina</i>			NT	－
		ヒロクチコギセル	<i>Reinia variegata</i>			CR+EN	－
	ナンバンマイマイ	キヌビロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis pumila</i>			NT	－
		カドコオオベソマイマイ	<i>Aegista proba goniosoma</i>			NT	－
3 目 6 科 8 種				0 種	0 種	8 種	－

注 1: 重要種選定基準の法律または文献記号は表 2-2-119 の表中の記号と対応している。

注 2: 重要種の選定基準の法律または文献のうち D「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」は陸産貝類・淡水産貝類の指定がない。

表 2-2-121 (1) 重要種（陸上動物）記録一覧

分類群	和名	重要種選定基準の 法律または文献記号				文献		
		A	B	C	D	a	b	c
鳥類	ウズラ			VU	非繁殖期・絶滅危惧 II 類		●	
	ウミアイサ				非繁殖期・準絶滅危惧			●
	アオバト				繁殖期・注目種、非繁殖期・注目種	●		●
	ヒメウ			EN	非繁殖期・準絶滅危惧			●
	ウミウ				非繁殖期・準絶滅危惧		●	●
	ササゴイ				繁殖期・絶滅危惧 II 類	●		
	チュウサギ			NT				●
	クロサギ				繁殖期・絶滅危惧 II 類			●
	ヒクイナ			NT	繁殖期・絶滅危惧 I 類	●		
	ヒメアマツバメ				繁殖期・減少種			●
	ダイゼン				非繁殖期・減少種			●
	イカルチドリ				繁殖期・準絶滅危惧、非繁殖期・注目種			●
	コチドリ				繁殖期・注目種	●		●
	シロチドリ			VU	繁殖期・絶滅危惧 II 類、非繁殖期・準絶滅危惧			●
	メダイチドリ				非繁殖期・準絶滅危惧			●
	ヤマシギ				非繁殖期・希少種			●
	タシギ				非繁殖期・注目種			●
	オオソリハシシギ			VU	非繁殖期・絶滅危惧 II 類			●
	チュウシャクシギ				非繁殖期・絶滅危惧 II 類			●
	ホウロクシギ			VU	非繁殖期・絶滅危惧 I 類			●
	アオアシシギ				非繁殖期・準絶滅危惧			●
	クサシギ				非繁殖期・準絶滅危惧			●
	タカブシギ			VU	非繁殖期・準絶滅危惧			●
	キアシシギ				非繁殖期・絶滅危惧 II 類			●
	ソリハシシギ				非繁殖期・絶滅危惧 II 類			●
	イソシギ				繁殖期・希少種、非繁殖期・注目種	●	●	●
	キョウジョシギ				非繁殖期・絶滅危惧 II 類			●
	オバシギ				非繁殖期・絶滅危惧 II 類			●
	トウネン				非繁殖期・絶滅危惧 II 類			●
	ハマシギ			NT	非繁殖期・絶滅危惧 II 類		●	●

表 2-2-121 (2) 重要種（陸上動物）記録一覧

分類群	和名	重要種選定基準の 法律または文献記号				文献		
		A	B	C	D	a	b	c
鳥類	オオセグロカモメ			NT				●
	コアジサシ			VU	繁殖期・絶滅危惧Ⅰ類			●
	ウミスズメ			CR				●
	ミサゴ			NT	繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類、 非繁殖期・準絶滅危惧			●
	ハチクマ			NT	繁殖期・絶滅危惧Ⅰ類			●
	オオワシ			VU				●
	ツミ				繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類、 非繁殖期・希少種			●
	ハイタカ			NT	繁殖期・情報不足、非繁殖期・希少種			●
	サシバ			VU	繁殖期・絶滅危惧Ⅰ類	●		●
	ノスリ				繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類、 非繁殖期・希少種			●
	フクロウ				繁殖期・準絶滅危惧			●
	アオバズク				繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類	●		
	ハヤブサ			VU	繁殖期・絶滅危惧Ⅰ類、 非繁殖期・希少種			●
	サンコウチョウ				繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類	●		
	モズ				繁殖期・減少種	●	●	●
	コガラ				繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類、 非繁殖期・準絶滅危惧		●	
	ヒバリ				繁殖期・減少種	●		●
	ツバメ				繁殖期・減少種	●		●
	コシアカツバメ				繁殖期・減少種	●		●
	ヤブサメ				繁殖期・準絶滅危惧	●		●
	エゾムシクイ				繁殖期・準絶滅危惧			●
	センダイムシクイ				繁殖期・準絶滅危惧	●		●
	オオヨシキリ				繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類	●		
	セッカ				繁殖期・減少種、非繁殖期・減少種			●
	トラツグミ				繁殖期・減少種			●
	アカハラ				繁殖期・減少種		●	●
	ルリビタキ				繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類			●
	コサメビタキ				繁殖期・絶滅危惧Ⅰ類			●
	キビタキ				繁殖期・減少種			●
	オオルリ				繁殖期・準絶滅危惧	●		●

表 2-2-121 (3) 重要種（陸上動物）記録一覧

分類群	和名	重要種選定基準の 法律または文献記号				文献		
		A	B	C	D	a	b	c
鳥類	キセキレイ				繁殖期・減少種	●	●	●
	セグロセキレイ				繁殖期・減少種	●	●	●
	ビンズイ				繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類			●
	カワラヒワ				繁殖期・減少種	●	●	●
	アオジ				繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類		●	●
	クロジ				繁殖期・絶滅危惧Ⅰ類、 非繁殖期・減少種		●	●

注 1: 重要種選定基準の法律または文献記号は表 2-2-119 の表中の記号と対応している。

注 2: 重要種の選定根拠 D「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」では鳥類のみ繁殖期、非繁殖期ごとにカテゴリが設定されている。

注 3: 重要種の選定根拠 D「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」鳥類のカテゴリ種別は以下の通り。
絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、注目種、情報不足、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

注 4: 表中の文献は以下に示すとおりである。

- a: 「第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書[鳥類]」（環境庁 昭和 55 年）
- b: 「第 3 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 鳥類」（環境庁 昭和 63 年）
- c: 「神奈川県の鳥 2011-2015 神奈川県鳥類目録Ⅶ」（日本野鳥の会神奈川支部 2020 年）

表 2-2-121 (4) 重要種（陸上動物）記録一覧

分類群	種名	重要種の選定根拠				文献			
		A	B	C	D	a	b	c	d
昆虫	アヤムナビロタマムシ				絶滅危惧Ⅱ類	●			
	ヒラタクワガタ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	●		●	
両生類・爬虫類	トウキョウサンショウウオ			VU	絶滅危惧Ⅰ類			●	●
	シュレーゲルアオガエル				要注意種			●	
	ニホンアカガエル				絶滅危惧Ⅱ類			●	
	ヒバカリ				準絶滅危惧			●	
魚類 (淡水・汽水域)	ニホンウナギ			EN				●	●
	メダカ (ミナミメダカ)			VU	絶滅危惧ⅠA類			●	●
陸産貝類・淡水産貝類	スルガギセル			NT	－			●	●
	モノアラガイ			NT	－			●	
	マルタニシ			VU	－			●	
	サドヤマトガイ			NT	－			●	
	チュウゼンギセル			NT	－			●	●
	ヒロクチコギセル			CR+EN	－			●	●
	キヌビロウドマイマイ			NT	－			●	
	カドコオオベソマイマイ			NT	－			●	

注 1: 重要種選定基準の法律または文献記号は表 2-2-119 の表中の記号と対応している。

注 2: 重要種の選定根拠 D「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」昆虫類・クモ類のカテゴリ種別は以下の通り。

絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、要注意種、希少種、注目種、情報不足、情報不足 A、情報不足 B、不明種

注 3: 重要種の選定根拠 D「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」爬虫類、両生類のカテゴリ種別は以下の通り。

絶滅種、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、要注意種、希少種

注 4: 重要種の選定根拠 D「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」汽水淡水魚類のカテゴリ種別は以下の通り。

絶滅、野生絶滅、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、情報不足、注目種

注 5: メダカ、ミナミメダカは同一種として扱った。

注 6: 重要種の選定根拠 D「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」は陸産貝類・淡水産貝類の指定がない。

注 7: 表中の文献は以下に示すとおりである。

- a: 「第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書」(環境庁 昭和 55 年)
- b: 「第 3 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書」(環境庁 昭和 63 年)
- c: 「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書」(環境庁 平成 5 年)
- d: 「第 5 回自然環境保全基礎調査 動植物分布情報報告書」(環境省 平成 13 年、平成 14 年)

ク．陸上動物の重要な生息地

表 2-2-122 に示す基準に基づく陸上動物の重要な生息地は、事業実施区域周辺では抽出されなかった。

表 2-2-122 陸上動物の重要な生息地選定基準

記号	法律または文献	種別
ア	「自然環境保全法」（昭和 47 年、法律第 85 号）に指定されている地域	原生自然環境保全地域 自然環境保全地域
イ	「自然公園法」（昭和 32 年、法律第 161 号）により指定されている地域	国立公園 国定公園 県立自然公園
ウ	「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」により指定されている地域 （平成 4 年、条約第 7 号）	自然遺産の登録基準に該当するもの
エ	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」により登録されている湿地 （昭和 55 年、条約第 28 号）	登録湿地